

理学専攻 M2 アンケートの集計と分析

このアンケートは平成27年度3月に修了した自然科学研究科理学専攻の大学院生を対象としたアンケート調査である。アンケートの回答結果は、理学専攻および理学科の教育システムの改革や改善向上のために活用する。全対象院生からのアンケート回答回収を目指して、各研究室にアンケート用紙必要部数を封筒に封入して配布し、以下提出期限までに教務担当事務まで提出依頼した。

提出期限: 2015年2月13日(金)

提出場所: 理学系教務係

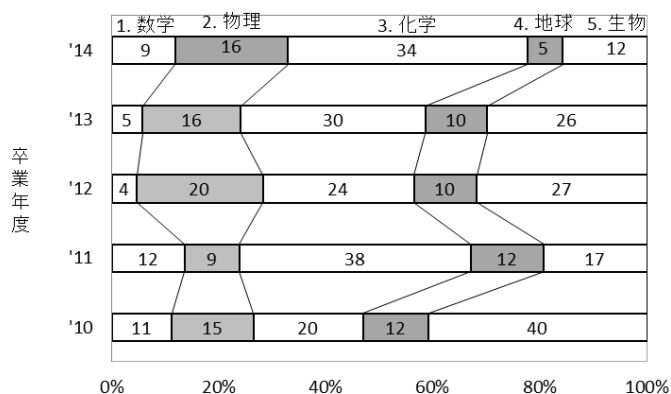
結果、76名から回答を得ることができた。回収率は86%であった。この報告書において回収したアンケートデータの集計とその分析を行った。

あなたの研究分野は何ですか

- 1. 数学 2. 物理学 3. 化学
- 4. 地球科学 5. 生物学

アンケート回答者数の分野ごとの数値である。

過去2年間と比較して、数学分野の院生数は増えているが、生物分野の院生数が半分以下に減っている。



A. 入学時の志望理由について

(A1) 入学時に熊本大学大学院自然科学研究科理学専攻を選んだ理由を記述して下さい。

回答・意見など：66件

枠内はこの質問に対する全意見。以下の枠も同様。

- 学部時に学んだ数学の知識・素養を更に身に付け、より高度な数学の研究をしたかったから。
- 学部時代にお世話になった先生方も多く、学習していく上で、非常に良い環境だったから。
- 熊本大学理学部に在学しており、セミナーの先生の指導の下であと2年間勉強や研究をしたいと思ったから。
- 数学に興味があったから。
- 数学を理解したかったから。
- 学部3年生の頃から幾何学に興味をもち、佐野指導教員の指導を受けていたから。また、他の大学の大学院について、考えることがなかったから。
- 教授陣、学習環境が充実していると思ったから。
- 大学で学んだことをそのまま延長できると思ったから。
- 学部生のころから始めた研究を続けることができるから。
- 大学時に学んだ研究室の延長で学習がしたかった。
- 研究に興味があったから。
- 学部生の時に所属していた研究室に引き続き在籍し続けることを希望したため。
- 4年次の研究を続けるため。
- 学部時代にも現在の研究室に所属していたのですが、同じ分野の研究について深めていくことで、社会で通用する人材に成長させることができると考えていたからです。
- 宇宙に興味があり、学部時代から研究しており、更に学びたいと思ったから。
- 学部生の頃から熊本大学に通っており、また自分の研究したい分野「宇宙」があったので。前者に関しては、院生になってからもスムーズに新生活に移れるという狙いがあった。
- 高度な技術社会に対応する力を身につけるため。
- 物理学に興味があったから。
- 理系全体に興味があったから。
- 研究を続けたかったから。
- 理学部を選んだ理由は、物理の実験に興味があったため。院へ進学した理由は、学部時代からの研究を進めたかったため。
- 化学を深く学びたかったから。学部の時にやっていた研究が面白く、続けたかったから。
- 有機化学の興味があり、特に基礎研究に魅力を感じていたから。
- 学部のころに指導を受けていた教授に指導を受けたかったから。
- 熊本大学理学部に所属しており、その際に取り組んだ研究分野が非常に興味深く、続けて取り組みたいと感じたため。
- 学部のときと同じ研究室で研究したかった為。

- 化学を活かした職業につきたかったため。
- あと2年間、専門知識を身に付けて、技術職に就きたかったため。
- 熊本大学で有機化学を学んで、同じ研究室で研究していきたいと思ったから。
- 熊本大学理学部理学科を卒業しており、引き続き熊本大学で学びたいと考えたため。
- 現在の研究を続けていきたくかったから。
- ドクターコースに進むならば他大学を選んでいたかもしれないが、就職を考えていたので、慣れているところを選んだ。
- 熊大に入学したからそのまま進学した。
- 幅広い知識を身につけ、総合的能力を伸ばしたかったことと、実際に大学の授業を通して、その先の進路を決めたかったから。
- 研究したかったから。
- 在学途中で専攻を決められる事が良かった。
- 学部時代に取り組んだ研究を続けたかったため。
- 学生時代（学部時代）に興味を持った分野を学ぶのに適した場所であると思ったため。手本とした先生がいたこと、研究内容に興味があったことも理由のひとつである。
- 大学4年時に研究室に所属し、研究を続けたいと思ったから。
- 地元であり、化学の知識を一層深めたいと思ったため。
- 自分が学んだ知識・技術を深め、さらに研究に取り組む。
- 所属していた学部のある大学院で、慣れ親しんだ環境で研究に専念できると思ったから。
- 熊本大学に在席していたから。
- 高校では学ぶことができなかった地学を学ぶことが出来、その後にコース選択ができるため。
- 教員免許取得のため。
- 化学の専門知識はもちろんのこと、その他の分野にまたがるような知識や広い視野を身につけたかったため。
- 大学からの研究を続行するため。
- 4年次に取り組んでいた研究をより深く追求したいと思ったため。また、地元の大学院だったため。
- 四年次に取り組んだ研究テーマを続けたかったから。
- 学部で取り組んだ研究に続けて取り組みたかったため。
- 4年時に学んだ研究を継続して行い、研究対象である隕石関連物質について、より知りたかったので。
- 自分からやりたい課題をさせてもらえる教授がいる学校だったから。
- 新たなテーマの研究にチャレンジするため。学生である時間を研究以外にも使うため。
- 4年時に行っていた研究内容について、より深い理解と成果をあげたかったから。
- 生物が好きだから。
- 量子力学に興味があったので、理学部を選びました。
- 学部では、専門分野に分かれるのが遅いため、大学院でより深く学ぼうと考えたため。
- 熊大理学部生物環境プログラムを卒業したため。
- 学部で修得した知識・技術をさらに深めたいと考えたため。
- ・地元にある点。 ・今の指導教授の元で学びたかった。

- 熊本大学理学部生物コースに在籍しており、卒業研究のテーマでの研究を続けたかったため。
- 学部時代に理学部生物コースに所属しており、研究室で行っていた研究を引き続き行いたいと考えたため。
- 科学的な（科学者としての）視点で物事を考えることができるようになりたいと考えたため。
- 学部で行っていた研究をひきつづき行いたかったため。
- 学部時に行っていた研究を引き続き行いたかったため。
- 卒論と同じテーマで実験を進め、成果を出したかったため。

多くあった意見をまとめると以下のようなになる。

研究を深めたい（継続したい）	36 件
学部と同じ先生に学びたい	7 件
学部と同じ環境で学びたい	5 件
就職活動のため	3 件

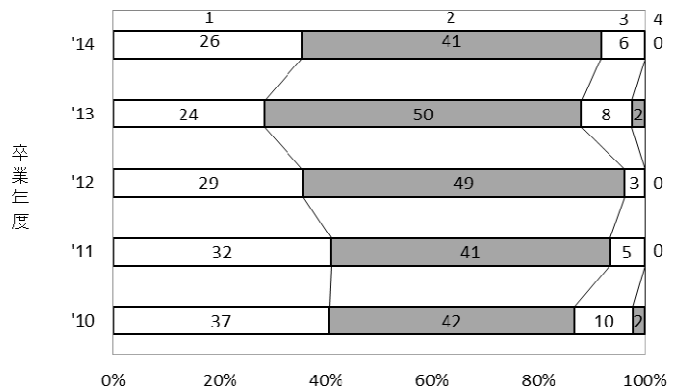
B. 教育・研究について

熊本大学理学部理学科を卒業された人に学部での授業や制度についてお聞きします。（該当しない人は次ページの質問（B7）に進んで下さい）。

（B1）あなたの専門分野に関連する学部の専門科目は、大学院進学後の学習・研究に有益でしたか。

1. 非常に有益だった
2. 有益だった
3. あまり有益ではなかった
4. 有益ではなかった

意見など：9件

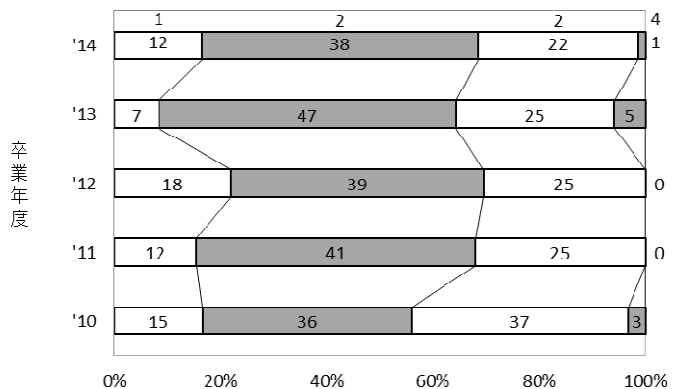


- ただ、大学3、4年生で他大学が1、2年生で学ぶ内容をするので、大学院で他大学3、4年で学ぶことを学ばないといけない。大学院では研究がメインになり、勉強する時間は短くなるので、基礎があまりついていない状態で研究を行わないといけない。それが少しくつかった。出来れば、早めて欲しいと思っていた。
- 期間が短い。（研究室での）
- 学部時代に、さらに深い範囲まで扱っても良い。
- 専門性が低い。他大学の理学部化学科と比べると特にそう感じる。
- 今の専門の科目はかなり少なく、ものたりなかった。
- 基礎的な考え方はどこの分野においても重要と感じている。
- 4年生の時に学んだ知識をそのまま大学院でも使えたから。
- 基礎的な面は全て共通しているので有益だった。
- 幅広い領域、知識を身に付ける事が出来た。

（B2）あなたの専門分野外の学部の専門科目（専門基礎科目も含む）は、大学院での学習・研究に有益でしたか。

1. 非常に有益だった
2. 有益だった
3. あまり有益ではなかった
4. 有益ではなかった

意見など：5件

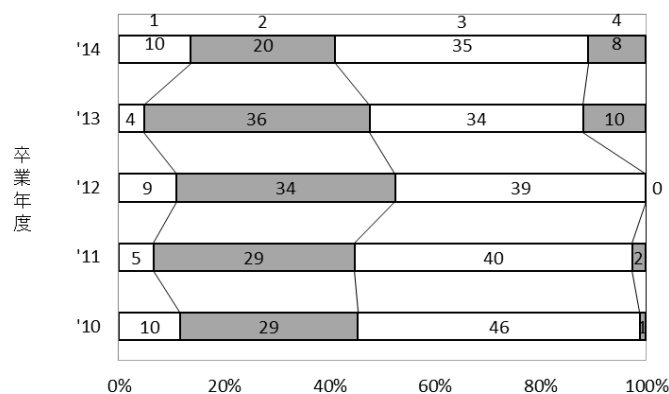


- 多様な見方につながったと思うから。
- 様々な視点で考える上で、有益であった。

- 教養の大切さは、価値観の違う人と接することで初めてわかった。多様なものの見方を修得できた。
- 生物学の研究を行っているが、化学の知識をよく使っているから。
- 論文を読む中での基礎知識となった。

(B3) 教養教育での学習は、大学院での学習・研究に有益でしたか。具体的な事例があれば、自由記述欄にお書き下さい。

1. 非常に有益だった
 2. 有益だった
 3. あまり有益ではなかった
 4. 有益ではなかった
- 意見など：6件

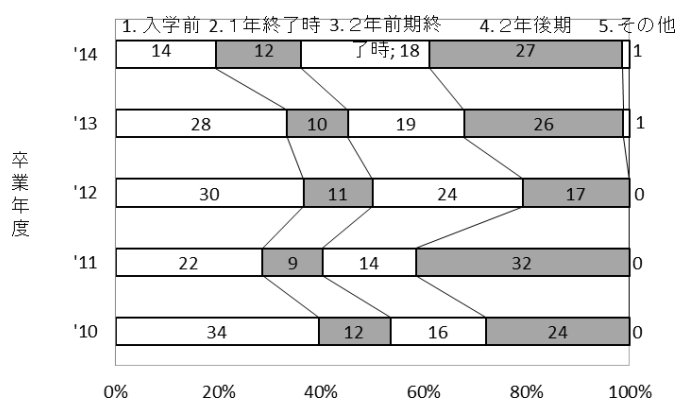


- 特に外国語に関しては、英字の論文を読むことも多いので、非常に有益だった。
- 物理学を学ぶために理学部に入学したのに、心理学や哲学や歴史を学ばなければならないのは時間の無駄である。
- 受講していないため。
- 教養としては1。
- 自分の学ぶ分野外も学んでおもしろかったから。
- 直接活かされることはなかったが、教養も深められて良かったと思う。

専門分野に関連する学部の専門科目は「非常に有益」と「有益」で90%以上を占めているが、専門分野外の専門科目では70%未満に留まっている。一方、教養教育に関しては、「非常に有益」と「有益」だったとする割合が今回は半数以下であった。

(B4) 理学科での専門分野はいつ決めましたか。

1. 入学前
 2. 1年終了時
 3. 2年前期終了時
 4. 2年後期
 5. その他
- 意見など：3件

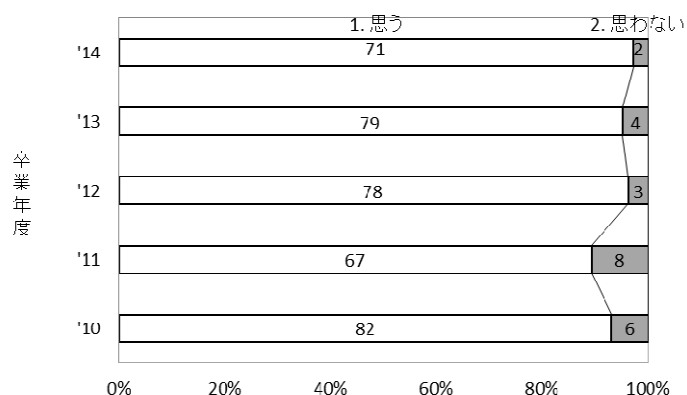


- 入学時は生物を専攻する予定でしたが、大学での数学の講義を受けて興味を持った。
- 2年の授業を受けて決めた。専門性が出てきて各専攻の色が見えた。裏を返せば、1年時のときから専門性のある内容をすれば1年のときに決められたのだが。

- 2年生の時に受講した数学系の授業で数学専攻のやる数学を経験し、イメージと違いがあったので物理系へ行きました。

(B5) 今かえりみて、専門分野の選択は自分にとってよかったですか。

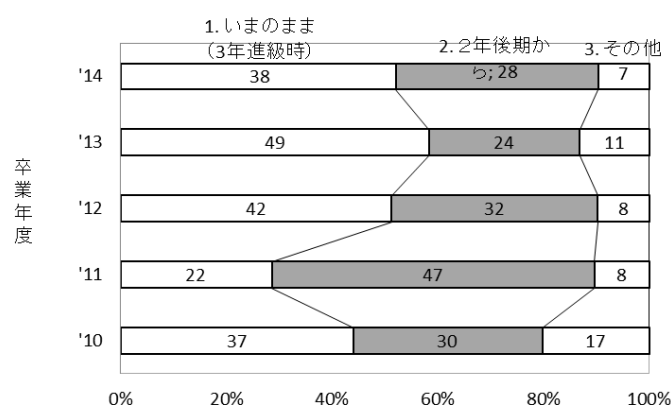
1. 思う
 2. 思わない
- 意見など：1件



- 自分の興味にはとても合っており満足しているが、就職活動においては化学や生物の方が幅が広がったように思う。

(B6) 現在、3年進級時に教育プログラムを選択していますが、今かえりみていつがよかったですか。

1. いまのまま (3年進級時)
 2. 2年後期から
 3. その他
- 意見など：10件



- 専門分野を学べる機会や時間が少なく感じたから。
- 入学時から
- 早ければ早いほうが、私には適切であった。
- 2年間しっかり自分と向き合い考えを出せる今の制度は好き。(自分も2年前期に化学→物理に進路変更した)
- 研究室への配属まで選択しなくてもよいのではないかと思います。
- もっと早くから自分の専門の研究がしたかった。
- 2年前期から
- 2年時開始から。
- 他大と比べて (工学部の物生と比べても) 遅れをとっている感じがあった。
- 入学時から分野別にし、より専門知識を高めたかった。

今年度に関しては、約36%が1年次終了までに専門分野を決め、約63%が2年次で専門分野を決めているため、大学1、2年次ともに専攻の選択に重要であることが伺える。専門分野の選択に関しては、

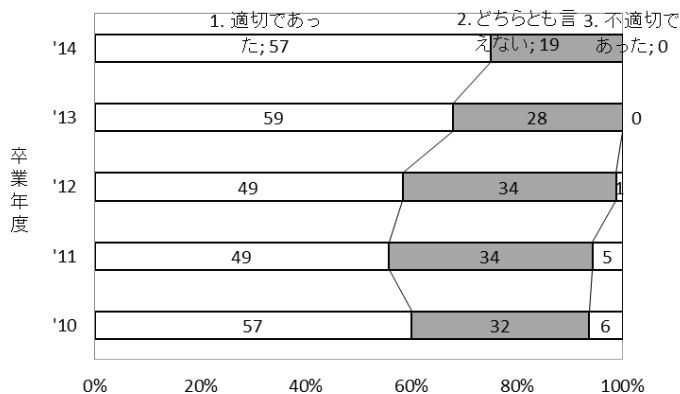
ほとんどの院生が満足しており、「思わない」と回答している学生はほとんどいなかった。

一方、選択の時期については、ここ3年間は「いまのまま」が半数以上ではあるが、今後の推移を見守る必要がある。

自然科学研究科での授業についてお聞きします。

(B7) 必修科目数と選択科目数の割合は適切でしたか。具体的な意見があれば、お書き下さい。

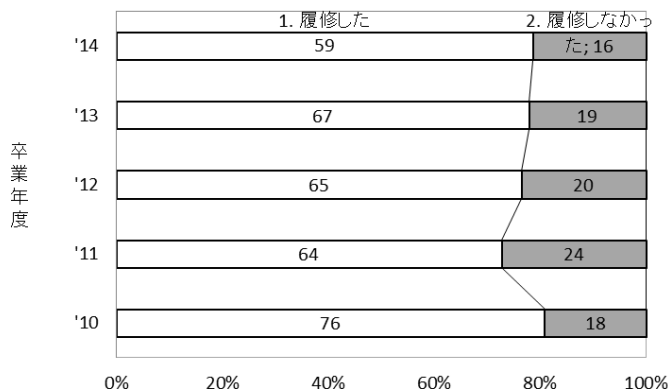
1. 適切であった
 2. どちらとも言えない
 3. 不適切であった
- 意見など：2件



- 専門性が低い。教員の数不足。
- 数自体は負担ではないが、専門によって選択しやすい科目の数がちがうのは困る。

(B8) 理学・数学専攻で他大学等の先生の集中講義を履修しましたか。履修した場合は、科目数もお書き下さい。また、集中講義に対して具体的な意見があれば、お書き下さい。

1. 履修した (科目数：回答数 53 件)
 2. 履修しなかった
- 意見など：6件



- 結局自分の専門外の話だと、ほとんど意味が分らなかった。
- 世界中で行われている研究を生で聞けるのは、非常に有意義だった。
- 化学系は学部、院に関わらず単位に関係なく受けた。
- 新鮮さがあり、良かった。
- いままで通りで良いと思う。
- 開講日時の通知は、履修登録者へメールでの通知を徹底して欲しい。

必修と選択の割合については、57%が「適切」としており、「不適切」の回答は全くなかった。また、集中講義については、約60%の院生が履修しており、大学院教育の重要な部分を担っていることがわかる。

(B9) 大学院の授業の中で特に有意義であった授業を挙げて下さい。

- 代数幾何学
- 数学総合ゼミナール
- セミナー
- 複素解析学Ⅱ
- 特になし
- 科学特論が複数の分野の話を聞くことができたので良かった。
- 計算物性基礎論
- 計算物性基礎論、固体電子論、構造不規則系物性論、科学英語演習Ⅰ
- 量子光学
- 教養科目。大学院では特に視野が狭くなりがちなので、意識して受けていました。
- インプットだけでなくアウトプット能力も身についたので、研究室でのゼミが一番有意義でした。
- 場の量子論Ⅱ。一般相対論。
- 微小領域物性物理学
- プロゼミ。他大学の先生の最先端の研究の話などを聞けて、有意義だったと思う。
- 有機化学特論
- 有機化学系
- 環境解析科学Ⅰ～Ⅲ
- 有機化学特論
- 有機化学特論Ⅰ、Ⅱ
- 集中講義だと思います。普段授業では学べないことも多いと感じたので。
- 石川先生の講義
- 有機化学
- 有機化学特論Ⅱ
- 有機化学の授業
- 有機化学
- 環境解析化学Ⅰ、Ⅱ
- 環境解析化学
- 授業のすべてを英語でおこなった環境化学Ⅲ。良い刺激になった。
- 環境分析
- 物理化学Ⅵ、松田真生先生の講義。理学特別講義、加藤礼三先生の集中講義。
- 科学英語
- どれも有意義だった。
- 地球物性学、鉱物形成論特論、岩石反応循環論特論
- 野外巡検が有意義であった。
- 自身の専門に関連する授業。
- 生命科学特別研究
- 他大学の先生による集中講義

- 特別研究
- 科学英語演習
- 分子生物学、生化学
- ・MOT 特別教育コース ・メタ生物学 ・ウイルスとワクチン
- 長沼先生の集中講義
- 科学英語 専門科目ばかりだと煮詰まってしまうため、いい気分転換になった。
- メタ生物学概論

(B10) 博士前期課程 2 年生で授業（特別研究やゼミナールを除く）を何科目履修しましたか。

科目数：平均 2.0 科目（うち集中講義 平均 1.0 科目）

回答数：69 件

意見など：5 件

- 1 年次に必要な単位を全て修得し、（2 年間履修のものは除く）研究に集中するのが毎年行われてきたスタイルだったから。
- 就活や卒業に向けての研究などで履修する余裕がなかった。
- 先端科学特別講義 I
- 1 年で必要単位はすべて取り、就活が忙しかったから。
- 大学院でも専門外の教養科目のようなものがあったらいいように感じた。

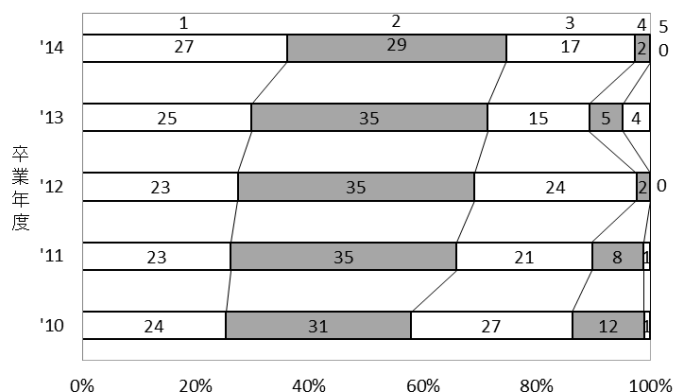
科目数としては、平均 2 科目を履修しており、集中講義については平均 1 科目を履修していた。

(B11) 博士前期課程のカリキュラムは如何

でしたか。

1. 満足
2. どちらかといえば満足
3. どちらとも言えない
4. どちらかといえば不満足
5. 不満足

意見など：5 件



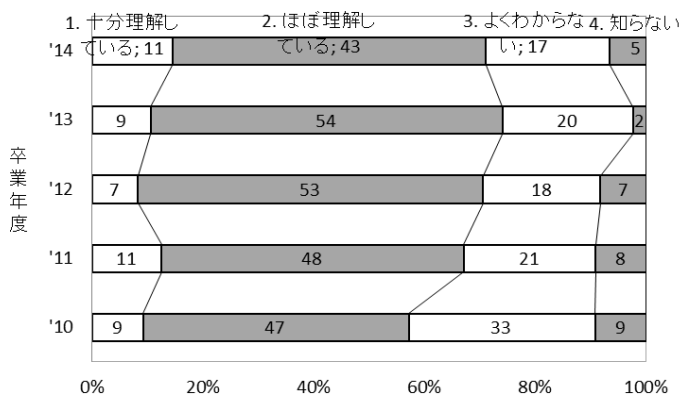
- 研究に集中できた。
- 単位かせぎのためにあまり関係ない化学系科目を受けざるを得ないのが苦痛。
- 自分の専攻には不必要な授業を受ける意味があるのか。（化学の中でも無機・有機・分析などの専門分野だけでよいのではないか）
- 研究も就活も自分のペースで進める事ができたから。
- 授業が多すぎると研究を満足にできないと思うので、これで良いと思う。

「満足」「どちらかといえば満足」の学生が約 75%と増加傾向にあった。「どちらとも言えない」「どちらかといえば不満足」という回答を更に減らしていく必要がある。

自然科学研究科の教育全般についてお聞きします。

(B12) 自然科学研究科の教育目的「総合的視野のもとに問題を解決し、広い分野で活躍することのできる高度専門職業人として育成する。」は理解していましたか。

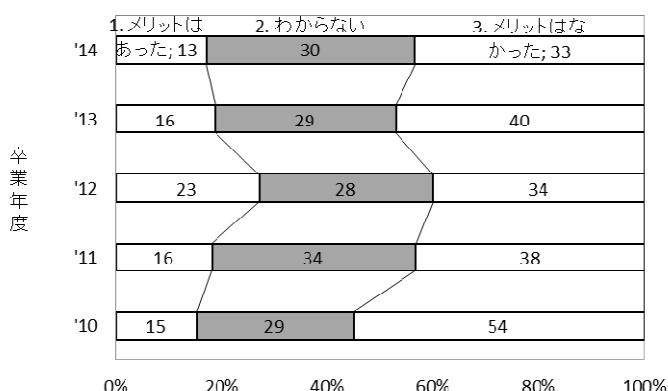
1. 十分理解している 2. ほぼ理解している
3. よくわからない 4. 知らない
意見など：0件



「十分理解」「ほぼ理解」の学生が約7割ではあるが、一方で「よくわからない」「知らない」学生も存在しているため、今後も周知徹底などの対策が必要である。

(B13) 自然科学研究科は理学系の専攻と工学系の専攻からなる融合型の研究科ですが、その事のメリットはありましたか。

1. メリットはあった
2. わからない
3. メリットはなかった
意見など：7件

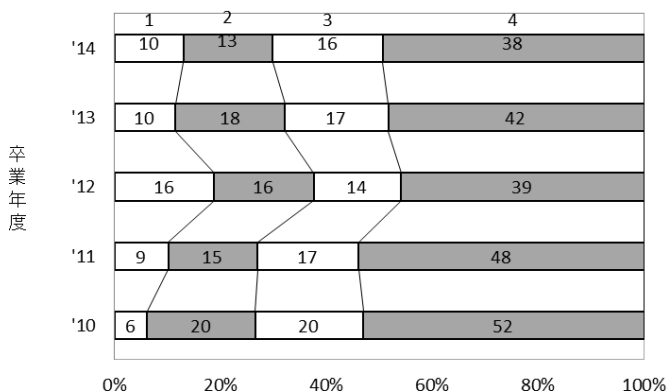


- 工学系と理学系は分けた方が良いと思う。
- 数学総合ゼミナールで、数理工学科から応用数理コースへ進んだ学生とお互いの研究内容を発表し合うことができたから。また、修士論文の中間発表会も合同で行えたから。
- 理学系と工学系の接点が少ないため、融合型の意味がない。
- 工学系の授業も受けられて刺激を受けることが出来たので。(自分は物理だったので、関係していることが多かったことが要因かもしれないが)
- 交流が無かった。
- あまり、工学系の方との交流が無かったため。
- 工学系の人と関わる機会がほぼない。

「メリットはなかった」の率が減ってはいるが、それでも4割を超えている。一方、「メリットはあった」とする回答も2割弱は存在しており、メリットを感じている学生もいる。

(B14) 工学系の専攻の大学院生との学術的交流はありましたか。

1. 工学系の大学院生と一緒に研究した
 2. 工学系の大学院生と一緒に授業を履修した
 3. 学術以外の交流があった
 4. 全くなかった
- 意見など：3件

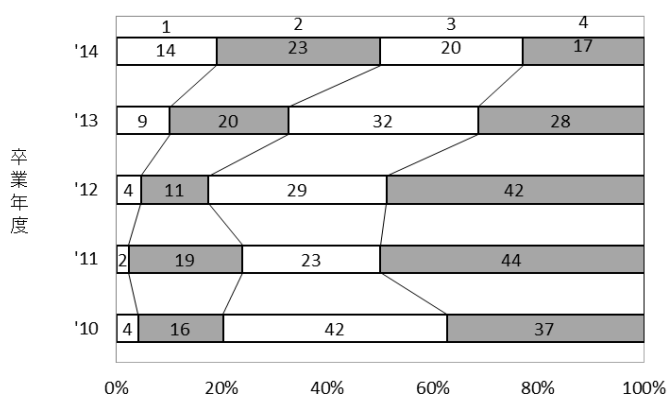


- 一緒にゼミを行った。
- 研究の過程で一緒にやった機会があり。
- 実験を教わりにくる方がいた。

工学系の大学院生と何らかの交流がある院生は半数近くとなっているが、一緒に研究した院生の数は1割強である。

(B15) 理学専攻の他コースの大学院生との学術的交流はありましたか。

1. 一緒に研究した
 2. 一緒に授業を履修した
 3. 学術以外の交流があった
 4. 全くなかった
- 意見など：10件

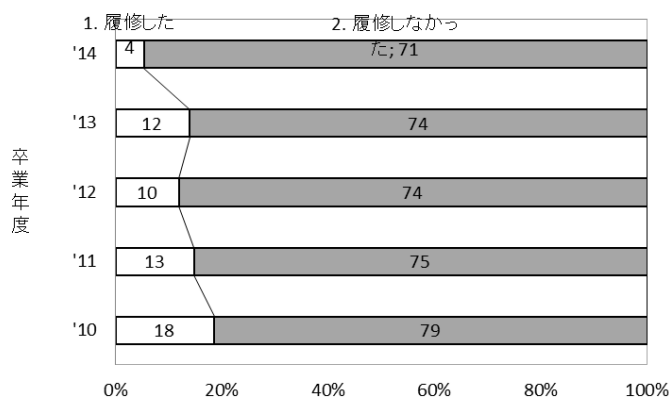


- 全大学院生向けの集中講義。
- 生物系との共同セミナーは楽しかった。
- 学会で意見交換あっただけ。
- 一緒にゼミを行った。
- 留学生を交えた、文化的な交流があった。
- 研究室どうしで少しだけ。
- 学会での交流はあった。
- ICASTでの交流。
- 学会でのディスカッション
- 化学分野と（生物分野との）合同のシンポジウムがあった。

理学専攻の中でも他コースの大学院生と何らかの交流がある院生は7割を超えており、特に一緒に研究した院生の数が2割弱と増加傾向にあった。

(B16) 他専攻（複合新領域専攻や工学系の専攻）の授業科目は履修しましたか。

1. 履修した（科目数：回答数 4 件）
2. 履修しなかった
意見など：1 件

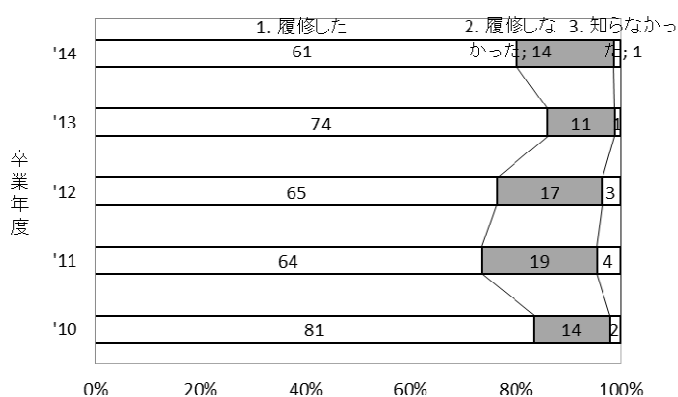


- 複合新領域専攻は初めて聞きました。

他専攻の授業を履修した院生は少なく、実質的に専攻を超えた授業の履修は行われていないと考えられる。

(B17) 全専攻共通科目のうちコース指定のない科目（プロジェクトゼミナール、特別プレゼンテーション、科学英語演習など）は履修しましたか。

1. 履修した（科目数：回答数 49 件）
2. 履修しなかった
3. 知らなかった
意見など：1 件

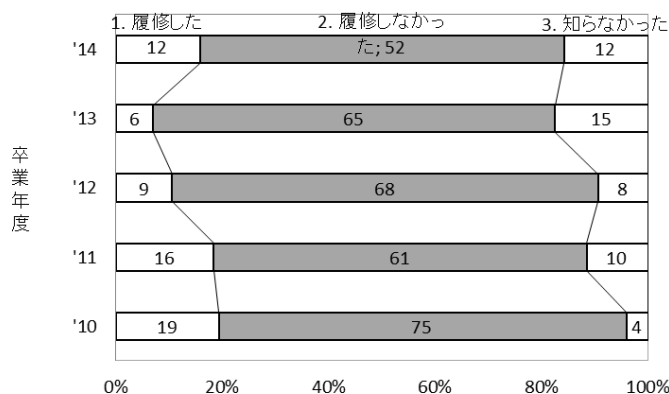


- たくさん学会に参加したので。

8割以上の院生が履修しており、プロジェクトゼミナールの履修などが定着していると思われる。

(B18) 全専攻共通科目のうち高度教養科目、外国語リテラシー科目、総合科学 A～C、IJEP 科目、MOT 科目は履修しましたか。

1. 履修した（科目数：回答数 11 件）
2. 履修しなかった
3. 知らなかった
意見など：1 件



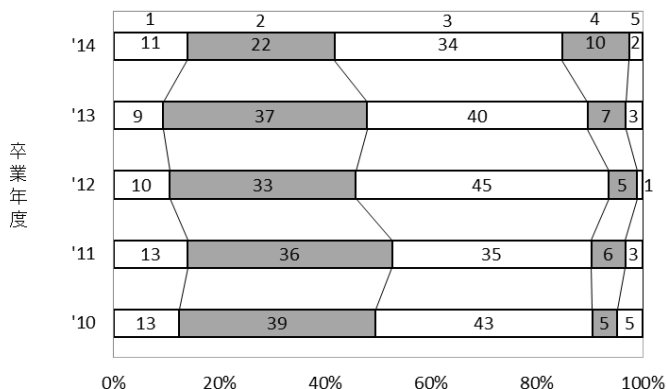
- MOT

(B17)と対照的に履修した院生の割合はかなり少ない。

(B19) 自然科学研究科の全面英語化計画（グラシウス計画）による授業の英語化について意見をお聞かせ下さい。（複数選択可）

1. 全て英語が良い
2. 専門用語は英語が良い
3. 基礎的な内容は日本語が良い
4. 全く必要ない
5. その他

意見など：9件



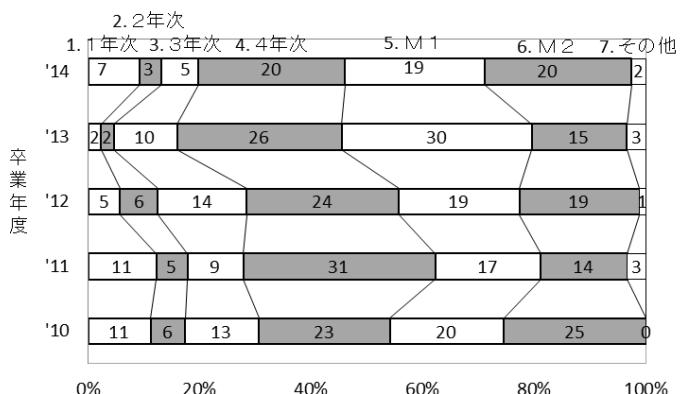
- 大学院は英語教育に力を入れる場ではない。必要だと強く思うが、学部を導入すべき。（英語力を身に付けるプログラム）
- 国際化を推奨すべきである。
- 経験なし。
- 日本語でも十分と言えないのに英語にする必要はない。
- いずれはした方がよいと思う。
- 学生の理解度を見ながら、教員が柔軟に対応すべき。
- 必要だと思う。
- 集中講義がすべて英語だと、よくわからないのがあったから。
- 日常会話は英語がいい。

「基礎的な内容は日本語が良い」とする院生が多い一方で、「全て英語」「専門用語は英語」と答える院生が4割以上いることは重要である。大学院教育における英語の使い方を検討すべきだろう。

(B20) 学部・大学院の6年間の中で勉学意欲が最も上がったのはどの時期ですか。

1. 1年次
2. 2年次
3. 3年次
4. 4年次
5. M1
6. M2
7. その他

意見など：4件



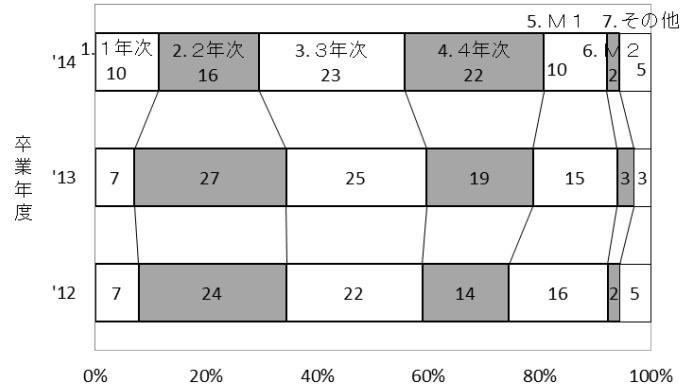
- 常に
- 学生実験を通して、研究の面白みを感じた。
- 授業がより専門的になった3年次と、学会発表をし始めたM1のとき。
- 研究室配属後です。

今年度に関しては、「4年次」「M1」「M2」がほぼ拮抗している。やはり研究室で研究を行うようになってから、勉学意欲が上がっているものと思われる。

(B21) 振り返ってみて、学部・大学院の6年間で、いつの時期にもっと学修しておけば良かったと思いますか。

1. 1年次
2. 2年次
3. 3年次
4. 4年次
5. M1
6. M2
7. その他

意見など：9件



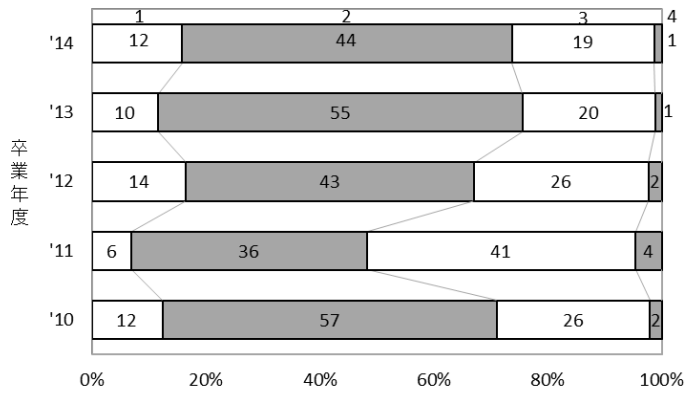
- 大学院進学が決まった後、与えられたことをするだけになっていたもので、もっと自主的に知識をつけておくべきだった。
- 学修した。
- 最初が大事。
- 研究室に配属後は、やはり研究に時間を割くため、その前に勉強することが望ましいと思います。
- 見通しができてなかったと反省しています。1~3年も参加できる研究室紹介などあったら良いと思います。自分の積極性も足りなかったがなかなか想像できず遊ぶことが多かったです。
- 理学科の2年次は暇なので、もっと講義を履修すればよかった。
- とくになし。
- 卒論の時間がある時期に知識をつめこむべきだった。
- 専門化してから、より知識を深める努力をすべきだった。

今年度に関しては、学部2、3、4年次に学修しておくべきだったという回答が多かった。

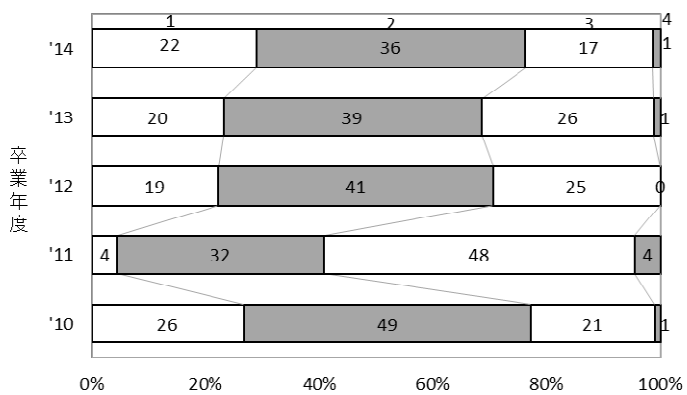
(B22) 学部・大学院の6年間の履修を通してどのような力が身に付いたと思いますか。それぞれの項目に関して、次の4段階で回答してください。

1. よく身に付いた
2. ある程度身に付いた
3. もっと身に付けたかった
4. 全く身に付かなかった

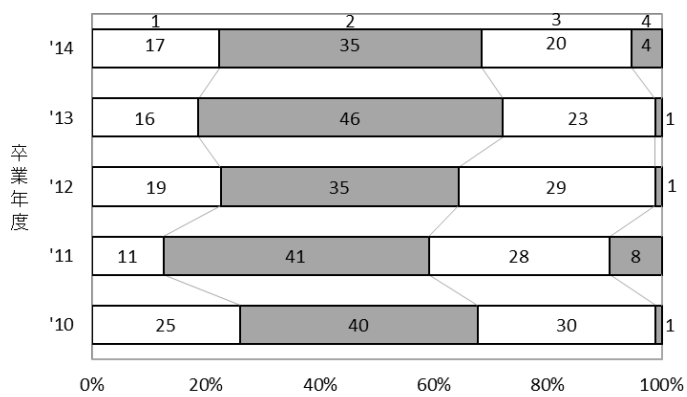
a. 教養・基礎学力：



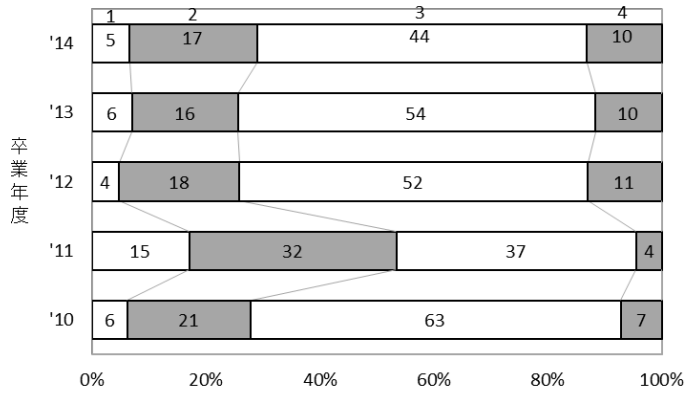
b. 専門知識 :



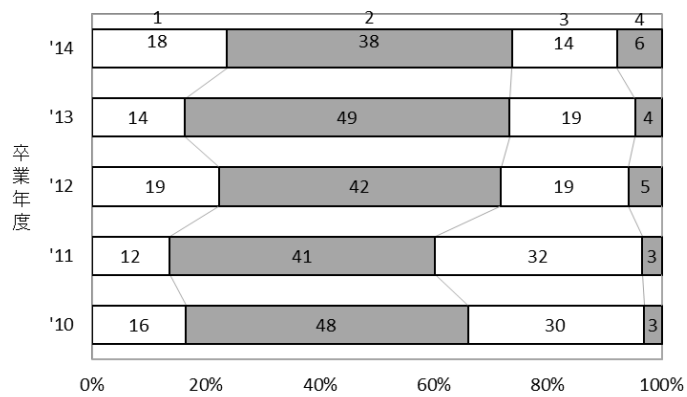
c. 技術・技能 :



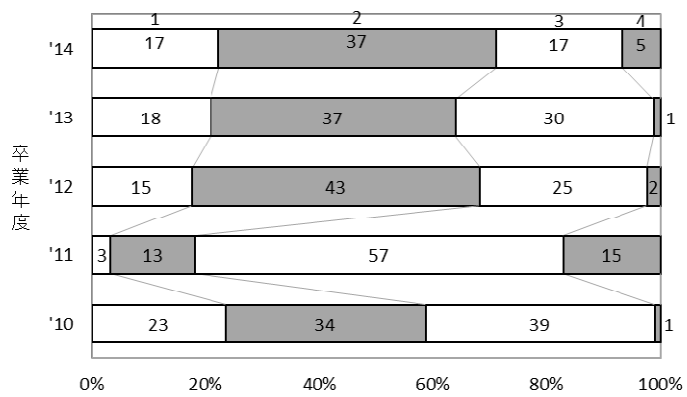
d. 英語を含めた外国語運用力 :



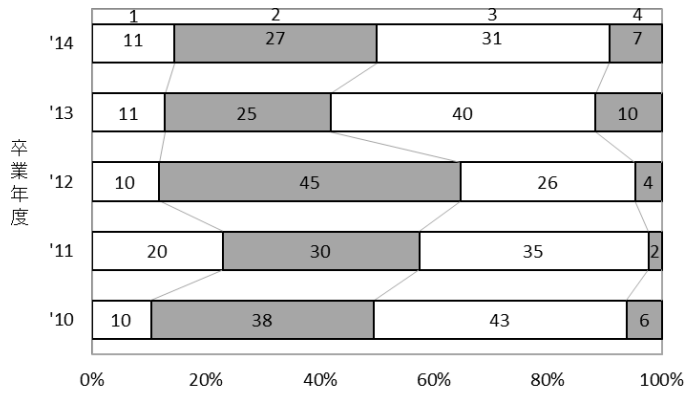
e. 一般的なコミュニケーション力 :



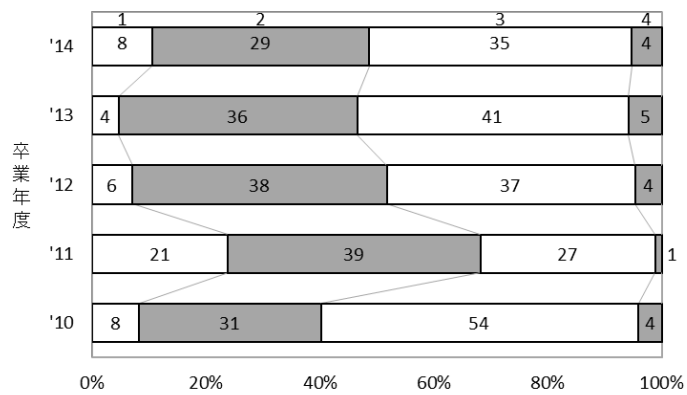
f. プレゼンテーション力 :



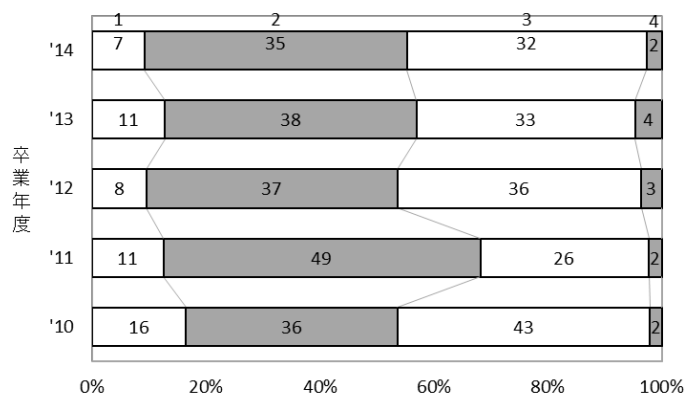
g. IT リテラシー・コンピュータ操作能力 :



h. 独創性・発想力：

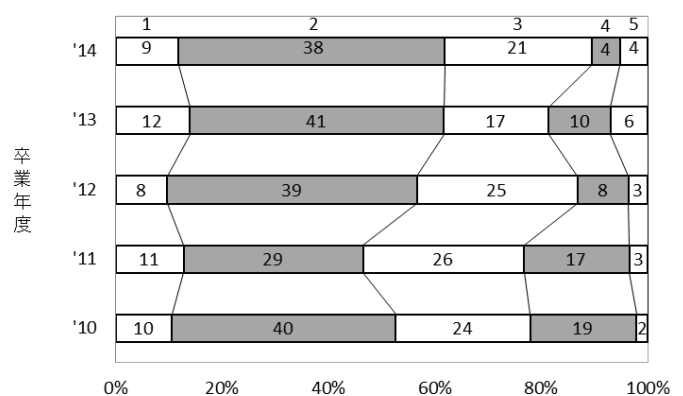


i. 課題発見・解決力：



ここ3年間は同様な傾向が伺えたが、4年前は少し異なる結果となっている。したがって、今後も継続的に注視していく必要がある。

(B23)博士前期課程を修了するにあたり、修士



としての専門能力が身に付いたと思いますが、自己評価として満足していますか。

1. 満足
2. どちらかといえば満足
3. どちらとも言えない
4. どちらかといえば不満足
5. 不満足

意見など：1件

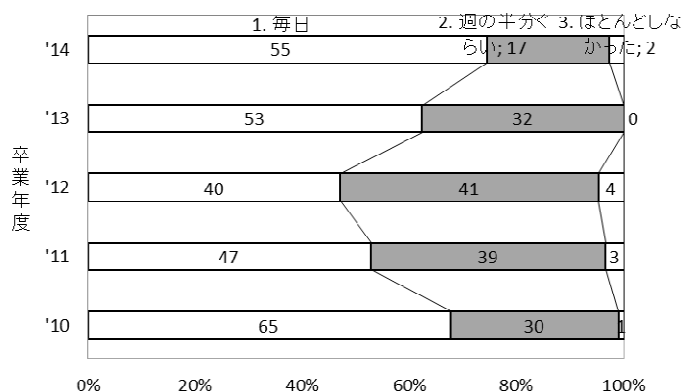
- 修士として専門能力を自己評価できるだけの機会がなかった。

「満足」「どちらかといえば満足」が6割強となっている。しかしこれは、「どちらとも言えない」も含め「満足」していない院生が4割程度いることを示しており、もっと詳細な調査が必要かもしれない。

修士論文の研究および研究指導体制やシステムについてお聞きします。

(B24) 修士論文の研究に平均としてどれだけ費やしましたか。

1. 毎日
 2. 週の半分ぐらい
 3. ほとんどしなかった
- 意見など：3件

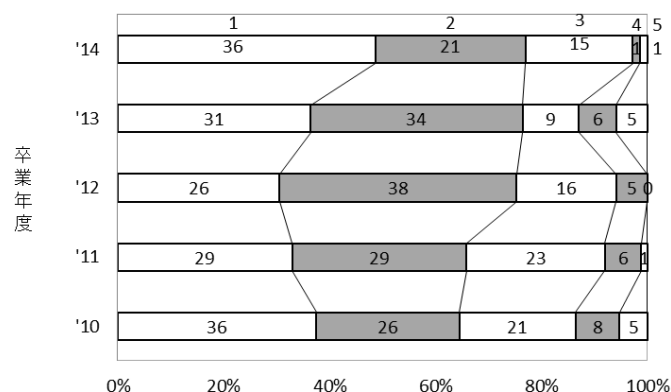


- 週 5
- 土日を除く
- 土日を除く（土日もやった日もあるが）M1の時は2.だった。

今年度は「毎日」とする学生が7割を超えており、年々増加傾向にある。これは、就職活動の長期化はあるものの、研究に費やす時間がある程度確保しようという意思が伝わる結果であると思われる。

(B25) 大学院での研究指導体制に対して満足していますか。

1. 満足
 2. どちらかといえば満足
 3. どちらとも言えない
 4. どちらかといえば不満足
 5. 不満足
- 意見など：1件



- 教授の仕事量が多い。

「満足」「どちらかといえば満足」の回答が7割を越えている。今後は、「どちらとも言えない」とする院生の数を減らしていく努力が必要であろう。

(B26) 研究を継続する上で役にたった項目（中間発表、学会発表、セミナーなど）があれば記述して下さい。

項目：43件

- 中間発表 16件

- 学会発表 25 件
- セミナー(ゼミ) 12 件
- 研究関係外の授業。言い方は良くないかも知れないが、研究のことを忘れられ、いい息抜きになる。しかも知識も身に付く。
- 学会発表：自分の研究の面白みを再確認できた。
- 研究室での中間報告はよい。M1、M2 での化学全体での中間報告会に必要性を感じない。
- 学会発表で、他の大学などと交流することで意欲の向上につながった。
- 中間発表や学会発表は、自分の中でも研究について整理することができ、意欲が高まった。
- 海外での学会発表はモチベーションになった。
- 全体でやる中間報告会は必要性を感じない。
- 中間発表は研究を見直すことができ、役にたった。
- 中間発表や学会発表は自身の研究を振り返る良い機会となった。
- 学会発表は良いモチベーションとなった。
- 学会、ゼミ。他分野への説明、他分野からのしてきは勉強になった。
- 国際学会。モチベーションが上がった。
- 学会発表では他分野の人の意見などがきけて勉強になった。
- 定期的に中間発表があったので意欲的に研究を行うことができた。
- 定期的に中間発表を行うことで、コンスタントに研究を進めることができた。

中間発表や学会発表などの発表を挙げた院生が多かった。発表することが研究に重要であることは伝わっているものと思われる。

C. 修了後の進路について

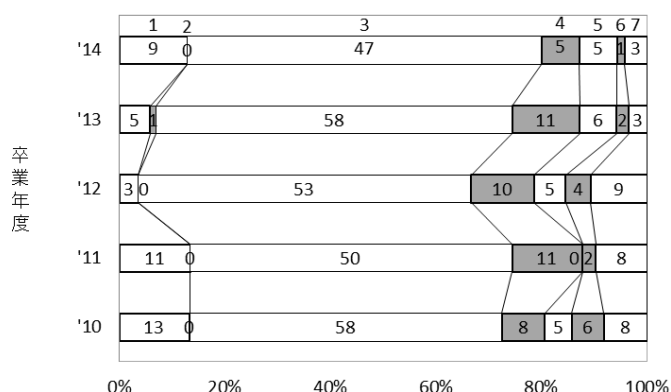
(C1) あなたの4月以降の進路は何ですか.

大学院博士後期課程へ進学

1. 熊本大学 2. 他の大学

就職

3. 民間企業
4. 教職
 (非常勤および臨時採用を含む)
5. 公務員
6. その他の就職先
7. その他 (進学・就職以外) : 3件



今年度は、本学後期課程に進学する院生が増えていたが、例年通り民間企業に就職する院生が最も多かった。また、教職や公務員も院生の進路として一定数あることは、重要であると思われる。

(C2) 大学院博士後期課程に進学する人にお聞きします。進学をいつ決めましたか.

回答数 : 12 件

研究室配属の頃 (1名)

修士課程 入学時点 (2名)

M1 (3名)

M1 の6月 (1名)

M1 の12月 (1名)

M1 の冬~M2 の春 (1名)

M1 の3月 (1名)

M2 の9月 (1名)

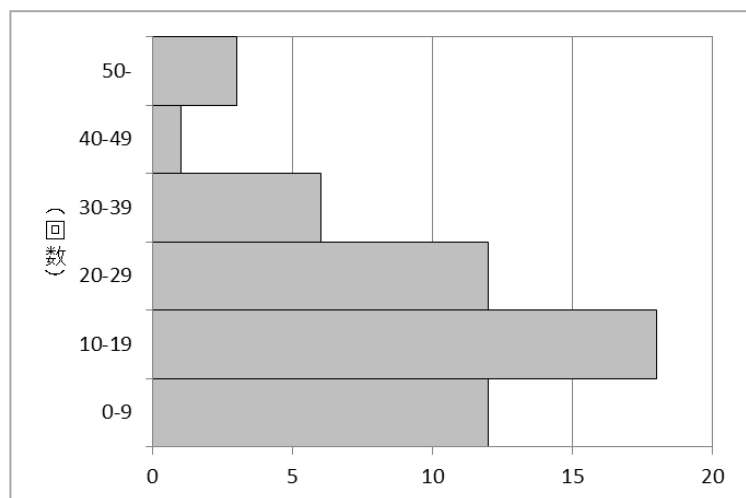
M2 の12月 (1名)

進学時期の決定は修士課程1年の時が多いが、研究室配属時から2年後半まで様々である。研究への取り組みの発達段階の個人的体験が大きな要素となっていることをうかがわせる。

就職活動をした人にお聞きします。就職活動をしなかった人は(D1)に進んで下さい。

(C3) 就職活動（面接や企業訪問など）のため、企業を何回訪問しましたか。

回答数：52 件



ピークは 10-19 回にあるが、0-9 回、20 回以上という院生も多い。

(C4) 就職活動をおこなった期間はいつですか。

開始時期	人数	終了時期	人数
2011/12	1	2012/4	1
2012/10	1	2013/2	1
2012/12	3	2013/4	1
2013/7	1	2013/8	1
2013/8	1	2013/11	1
2013/10	1	2014/3	2
2013/11	2	2014/4	18
2013/12	34	2014/5	11
2014/1	8	2014/6	6
2014/2	1	2014/7	2
2014/6	1	2014/8	3
2014/7	1	2014/9	3
		2014/10	1
		2014/11	1
		2014/12	2
		2015/2	1

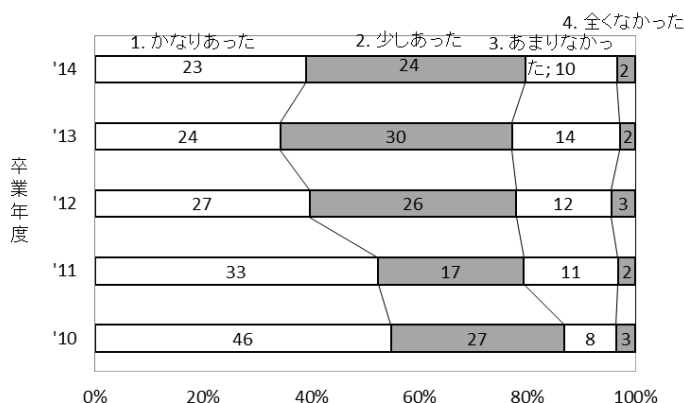
意見など：2 件

- 公務員第一志望で企業もうけていたため長いです。
- 面接開始は H26.3～

就職活動の開始時期は、M1 の 12 月から M2 の 1 月であることがわかる。一方、終了時期はもう少し広く分散しているが、大体 M2 の 4-6 月である。遅い人では、M2 の年末や 25 年という人もおり、就職活動期間の長期化が懸念される。

(C5) 就職活動のため、大学院の授業や研究に参加できないことによる影響はどの程度ありましたか。

- 1. かなりあった
 - 2. 少しあった
 - 3. あまりなかった
 - 4. 全くなかった
- 意見など：3 件

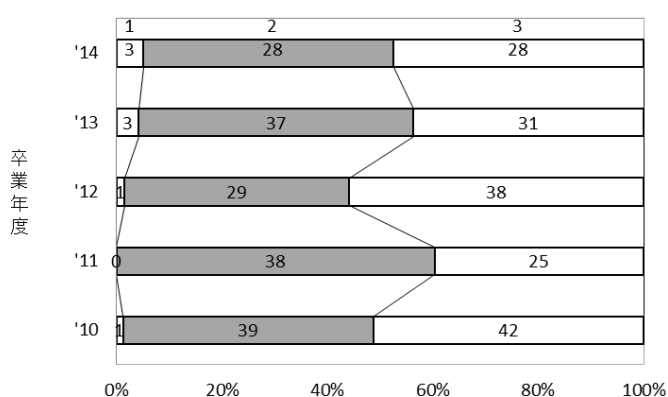


- M1 でほぼ全て単位を取得したため、M2 での影響は少しだった。
- 私は恵まれていたのですが、周囲の学生を見ていて、教員側がもっと就職活動に理解を示すべきだと思います。
- 2 年生の時に、もっと研究に取り組みたかったが、難しかった。

(C4)の結果から、就活が授業や研究に影響があることは容易に予想される。実際、(C5)の結果は、「かなりあった」「少しあった」で約 8 割に達している。熊本大学だけではなく、日本の大学全体の大きな課題である。

(C6) 現在理学部では特定の企業に対して学部長推薦の枠もあります。利用しましたか。

- 1. 学部長推薦を利用した
 - 2. 学部長推薦があることは知っているが利用しなかった
 - 3. 知らなかった
- 意見など：1 件

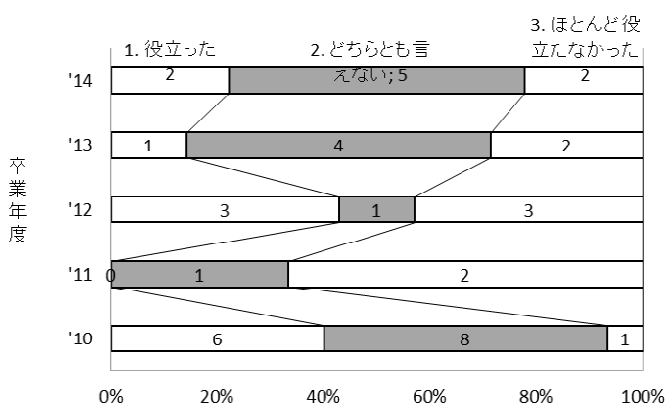


- 学生に平等に知らせて欲しい。

今年度は、学部長推薦を利用した院生は 3 名であった。今後も周知を徹底するとともに、就職支援の充実を進める必要がある。

(C7) 大学院で学外特別演習（インターンシップ）を履修した人にお聞きします。（教育インターンシップも含まれます）卒業後の進路を決める上で役立ちましたか。

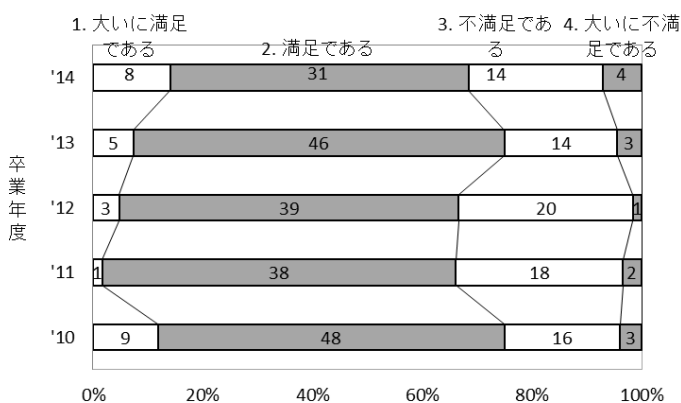
1. 役立った
 2. どちらとも言えない
 3. ほとんど役立たなかった
- 意見など：0件



今年度については、「役に立った」と回答した院生が2名存在していたが、全体の数が少ないので、年度ごとのぶれが大きい結果となっている。

(C8) 就職相談・キャリア支援の体制および情報には満足でしたか。

1. 大いに満足である
 2. 満足である
 3. 不満足である
 4. 大いに不満足である
- 意見など：8件



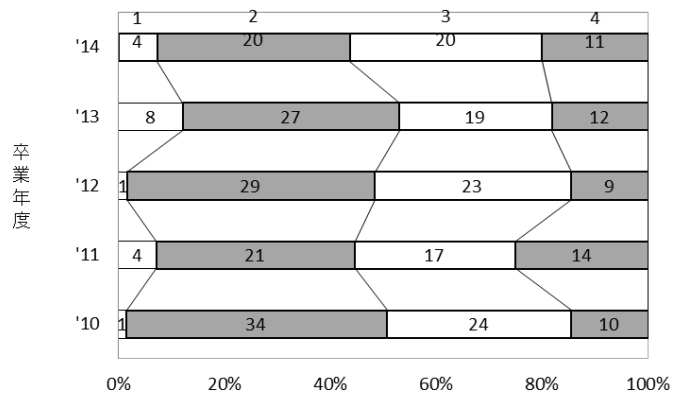
- キャリア支援がなければ内定はなかったと思います。
- 大学が孤立していると思う。社会の中に大学があることを踏まえて、このような指導をもっと導入してほしいです。
- 不安だけあおられて、逆効果に感じた。
- ほとんど利用していない。
- 何回も利用しました。面接練習していただいた方には感謝してます。ただ、もっと利用枠が広がれば良いと思った。なかなか予約がとれなかったです。
- 文系と理系の就活は全く違うものであるので、逆に情報がぐちゃぐちゃになってまどわされている人が多かった。
- 面接の練習をしてもらった。
- 利用していない。

「大いに満足」「満足」の割合が今年度は7割弱であった。今後も推移を見守る必要があるだろう。

熊本大学理学部理学科を卒業した人にお聞きします（該当しない学生は (D1) に進んで下さい）.

(C9) 就職活動で数学・理科の専門基礎を幅広く学んだことが役に立ちましたか.

1. 採用の決め手となった
 2. ある程度役にたった
 3. どちらもといえない
 4. 役に立たなかった
- 意見など：0件

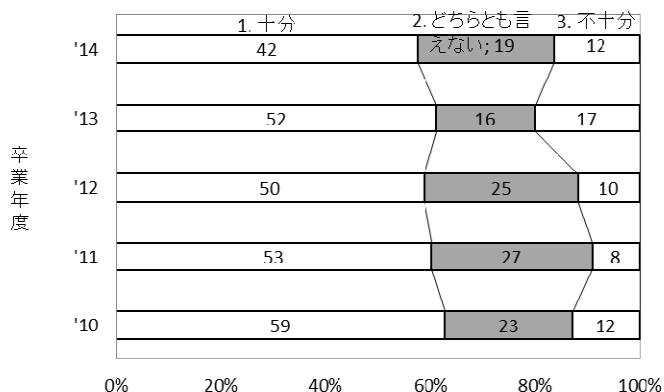


「採用の決め手となった」は4名で、「ある程度役にたった」までいれると4割強であり、ある程度の評価を受けている。一方、これは半数以上の院生は価値を見いだしていないことを表しており、今後検討する必要がある。

D. 学習環境や学生生活について

(D1) 自主的に学習できる場所や施設は十分ですか。必要なものがあれば「自由記述」に挙げて下さい。

1. 十分
 2. どちらとも言えない
 3. 不十分
- 意見など：13件



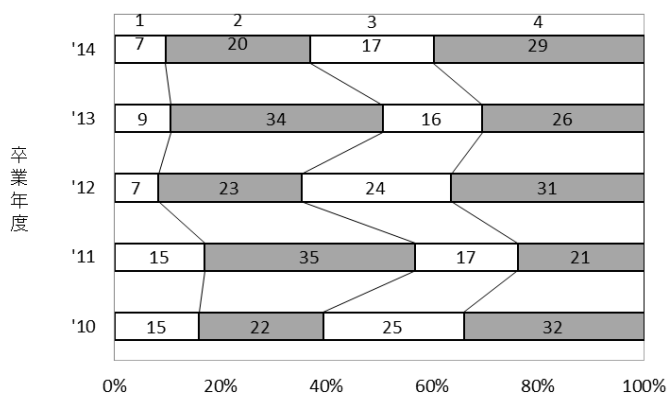
● PC

- 議論出来るスペースが少ない。
- もっと空き教室を開放してほしい。
- 部屋の数足りない。
- 理学部の小講義室が開放されなくなったのは何故？他学部が入ってきていて関係ない利用をされていたことはあったが、必要では？
- 実験とデスクワークの部屋別々にしてほしい。
- 「ルポゼ」のような場所がもっとあれば良い。
- 夜中もできる場所があったらべんり。
- もっと欲しい。
- 自分一人一人の研究用の机があたえられる。24h 使えるから。
- 学生が部屋に入りきらない。
- 24時間空いている学習場所がない。もしくは知らない。
- 地学のように学生部屋があると就活時の情報交換も活発になったと思う。

「十分」が6割弱であるが、「どちらとも言えない」「不十分」もある程度多かった。

(D2) 在学中は、学生生活を続けていく上で、経済的な問題がありましたか。

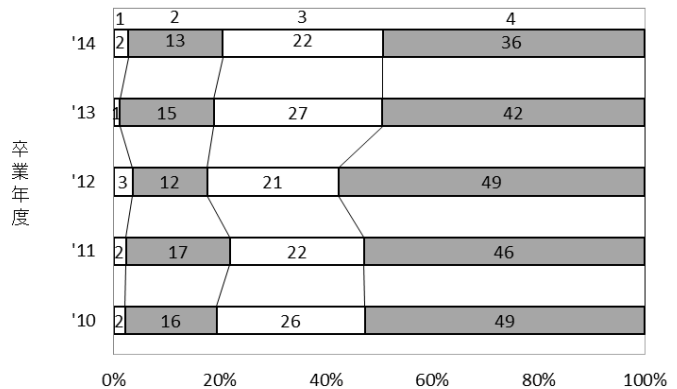
1. ほぼ全期間にわたってあった
 2. 時々あった
 3. 少しかあった
 4. 全くなかった
- 意見など：1件



- 留学や学会発表などの際にも奨学金をいただき、感謝しています。

(D3) 在学中は、教員や学生との人間関係で問題がありましたか。

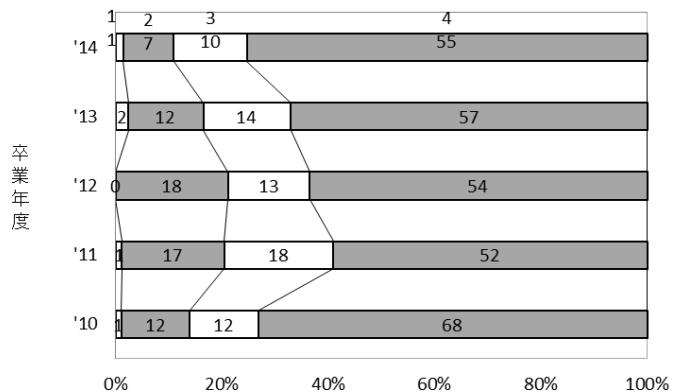
1. ほぼ全期間にわたってあった
 2. 時々あった
 3. 少しだけあった
 4. 全くなかった
- 意見など：3件



- 研究がうまくいかないとき。先生や先輩の求めている要求に対し、レベルが高いと感じ、ついていけなかったとき。
- 意欲のない学生との対立。
- セクハラやパワハラまがいのことがあった。

(D4) 在学中は、住居の条件や環境に問題がありましたか。

1. ほぼ全期間にわたってあった
 2. 時々あった
 3. 少しだけあった
 4. 全くなかった
- 意見など：1件

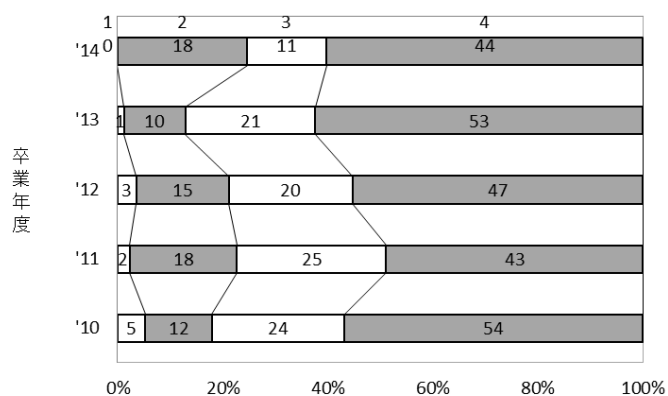


- 家が遠かった。

昨年、経済的な問題が「時々あった」とする院生の割合が増えたが、今回は一昨年のレベルにまで下がった。それでも40%近いことを考えると、経済的な支援の検討を進める必要があるだろう。また、人間関係の問題も「少しだけあった」まで入れると約半数に達しており、検討が必要である。対応する窓口の周知など更なる対応の充実が求められる。住居・環境については上記2つよりは少ないが2割強で問題が「あった」としており、これからの院生への対応策が必要である。

(D5) 学生生活を続けていく上で健康面に問題がありましたか。

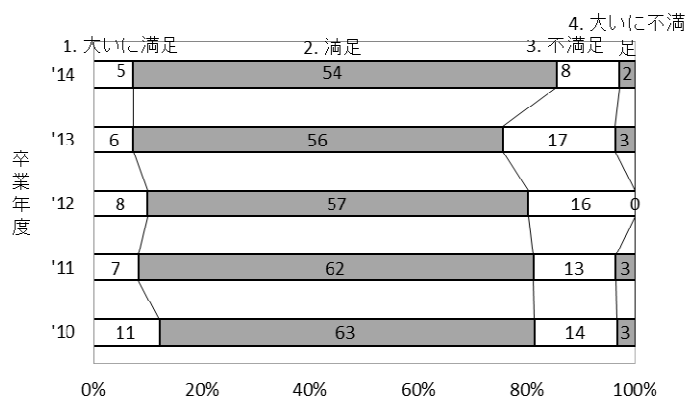
1. ほぼ全期間にわたってあった
 2. 時々あった
 3. 少しだけあった
 4. 全くなかった
- 意見など：2件



- 1週間の入院
- ストレスでじんましんが出た。

(D6) 健康相談の体制には満足できましたか。

1. 大いに満足である
 2. 満足である
 3. 不満足である
 4. 大いに不満足である
- 意見など：6件



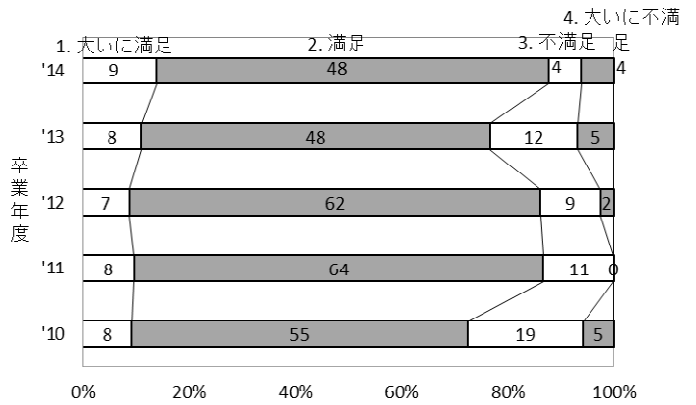
- 相談したことがないので知らない。
- 一度だけ利用したが、結局「病院に行きなさい」的なことしか言われず、ただの二度手間での時間の無駄だった。
- 利用していない。
- 保険センターにはお世話になった。
- 保健センターをもう少しおそい時間まであけてほしい。
- 利用した事が無い

健康面に問題が「あった」と回答した院生の割合は約4割いるため、これらの院生に対する策を検討する必要がある。相談体制に関しては、「大いに満足」「満足」している院生が8割を超えているため、現状の満足度は高い。

(D7) 各種ハラスメント相談の体制には満足

できましたか。

- 1. 大いに満足である 2. 満足である
 - 3. 不満足である
 - 4. 大いに不満足である
- 意見など：8件



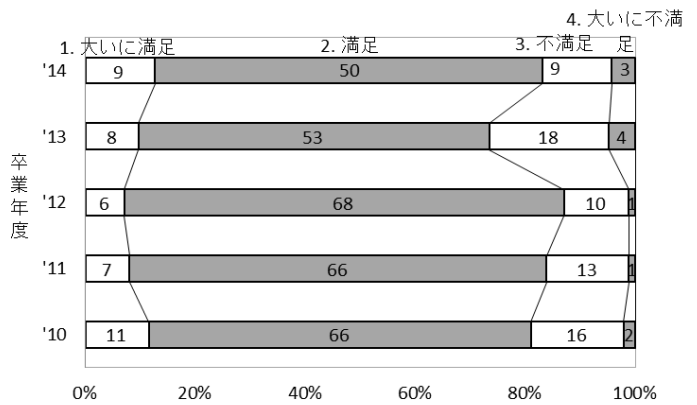
- 知らない。
- 利用したことがないので不明。
- やったことがないので分らない。
- ”使ったことがない”、”わからない”という欄が必要では？
- 利用していない。
- 利用していないためわからない。
- 利用した事が無い
- 実際に機能しているのかわからない。

「大いに満足」「満足」と回答した院生が8割を超えていた。

(D8) 授業・学習支援・生活支援を含む熊本大学の学習環境全体の満足度についてお聞きします。

できますか。

- 1. 大いに満足である 2. 満足である
 - 3. 不満足である
 - 4. 大いに不満足である
- 意見など：1件



- 図書館がこうぎのある時間に休館になることがあるのは不便。

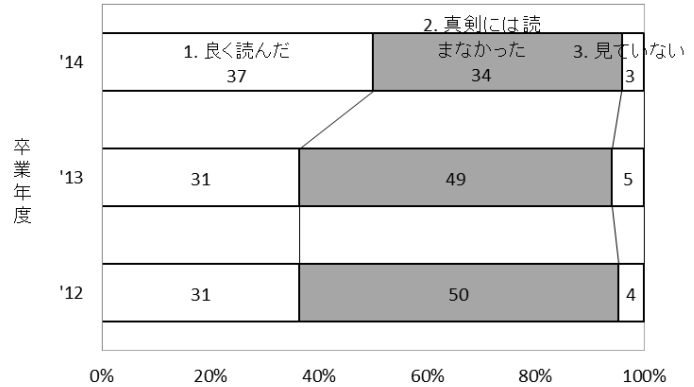
環境全体に関する満足度も高く、8割を越えている。残りの2割にどのような不満があるのか、更なる調査が必要かもしれない。

E. 授業改善アンケートおよびシラバスについて

大学院の授業に関するシラバスについてお聞きします。

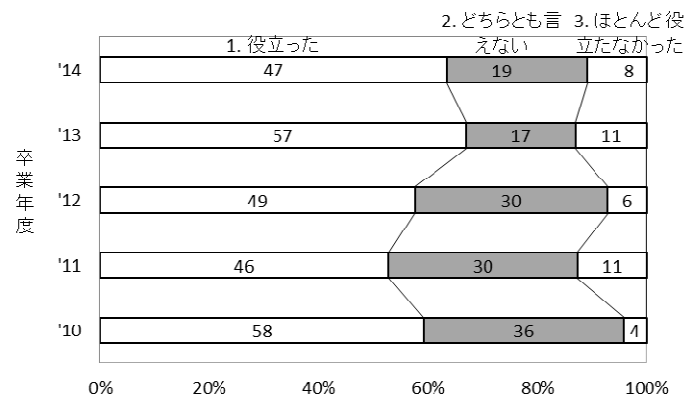
(E1) シラバスは良くよみましたか。

1. 良く読んだ
 2. 真剣には読まなかった
 3. 見ていない
- 意見など：0件



(E2) 履修する科目を選択する際にシラバスは役立ちましたか。

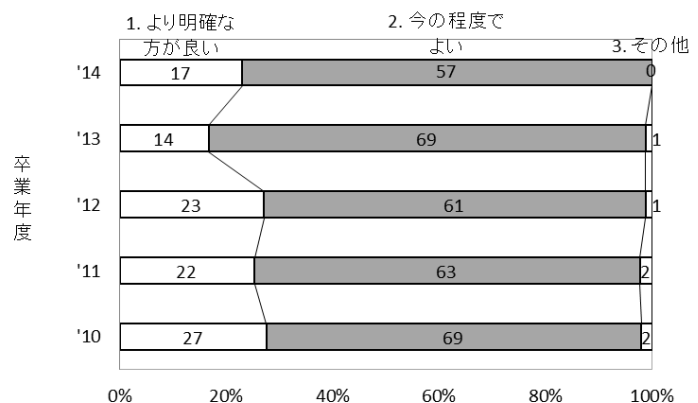
1. 役立った
 2. どちらとも言えない
 3. ほとんど役立たなかった
- 意見など：0件



シラバスは「真剣には読まなかった」が、履修科目の選択には「役立った」ようである。大学院の授業においてもある程度シラバスが利用されていることがわかる。一方、3割弱の院生については、シラバスが役立ったかについて「どちらとも言えない」としており、今後検討が必要である。

(E3) シラバスの成績評価の方法はもっと明確なものが良いですか。

1. より明確な方が良い
 2. 今の程度でよい
 3. その他
- 意見など：2件



- ゴールがはっきりする。よく分らないまま成績が悪かったりすると(自分は頑張ったにもかかわらず)、

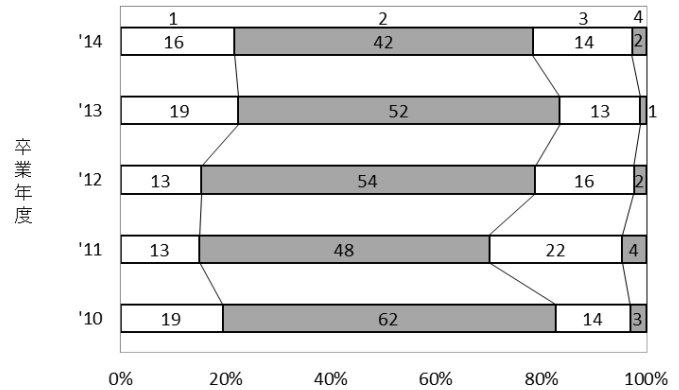
正直疑問が残る。より明確だと初めから示してあるし、成績が悪くても、少しは納得すると思う。

- 先生がしっかり説明をしてくだされば問題なし。

(E4) 全体的に、シラバスに記載された方法で厳格な成績評価が行われていると思いますか。

1. 行われている
2. 多くの科目で行われている
3. あまり行われていない
4. その他

意見など：1件



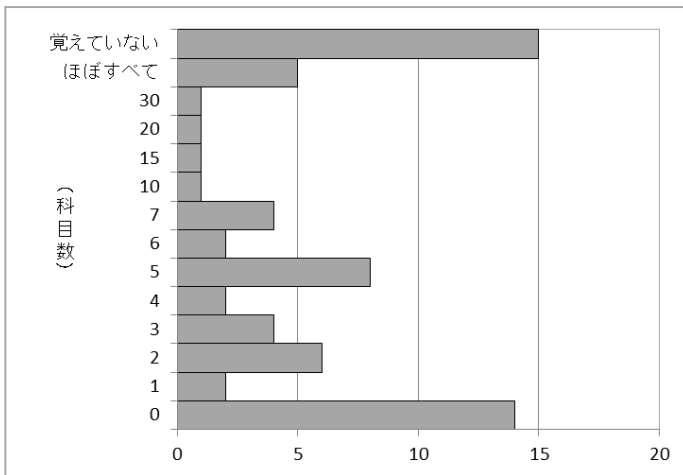
- 分らない。

(E3)では「今の程度でよい」が7割を超えており、(E4)では厳格な成績評価が多くの科目で行われているという評価である。大学院の授業の成績評価であるので、成績に対する院生の意識がどの程度であるかを検討する必要があるだろう。

大学院の授業に対して行われた「授業改善のためのアンケート」についてお聞きます。

(E5) 在学中何科目の授業でアンケートに回答しましたか。

回答数：47件

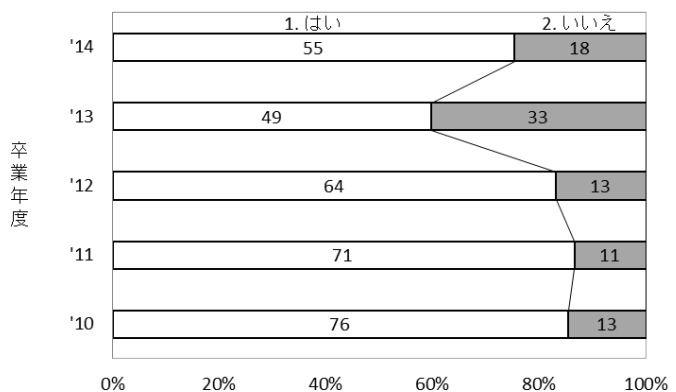


ほとんどすべてと答える院生もいるが、回答したことがないという人も多い。

(E6) アンケートの回答に積極的に協力しましたか。

1. はい
意見など：3件

2. いいえ

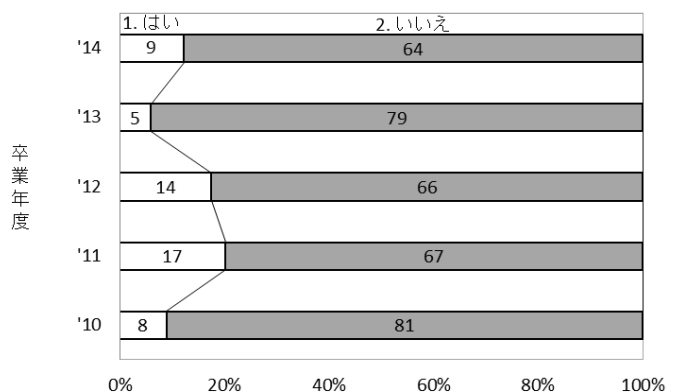


- アンケートに答える機会がなかった。
- アンケートが配られない。
- 紙が配られていたとしたら回答していると思う。

(E7) Web 上での教員のコメントは読みましたか。

1. はい
意見など：0件

2. いいえ



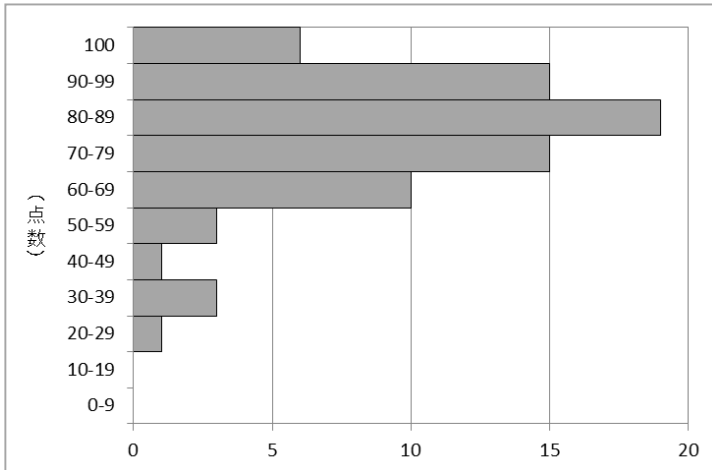
教員のコメントはほとんど読まれていないことがわかる。この割合はシステム的な問題と思われるので、システムの改善が望まれる。

F. 総合評価

理学専攻に対する評価をお聞きします。

(F1) あなたの理学専攻に対する評価・満足度を 100 点満点で点数をつけて下さい。

回答数：73 件



意見など：10 件

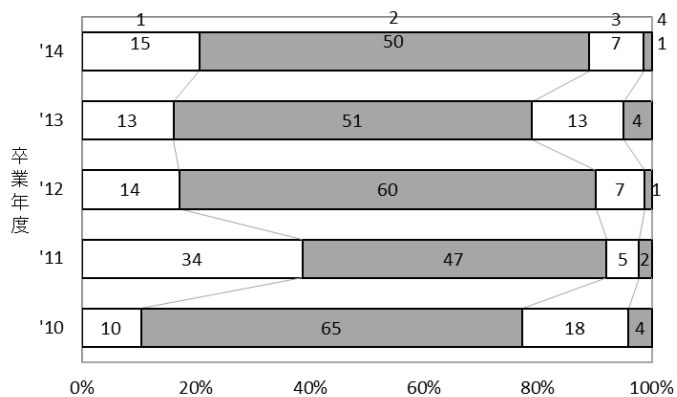
- とても良い環境であると感じていました。
- 指導や環境は大満足。自分の努力でもう少し学ぶことで、さらなる知識の取得につながったと思う。
- 専門知識は身に付いたが、卒業したらあまり役に立たないのではないかと就活で感じた。
- もっと良い研究体制ができると期待を込めて。
- 自主的に取り組むことができ、有意義なものにできた。
- 人一倍研究に取り組むことはできたのではないかと思います。もう少し、座学にも時間を使うことができれば、尚、良かったかと思いました。
- 自分の努力不足。環境には満足。
- 他コースとの関わりがもう少しあると良かった。
- 様々な分野の先生方がおり、幅広い知識を得ることができたため。
- もっと研究に没頭すべきだった。

80-89 点をピークとしており、概ね満足していると感じる院生が多いことがわかる。

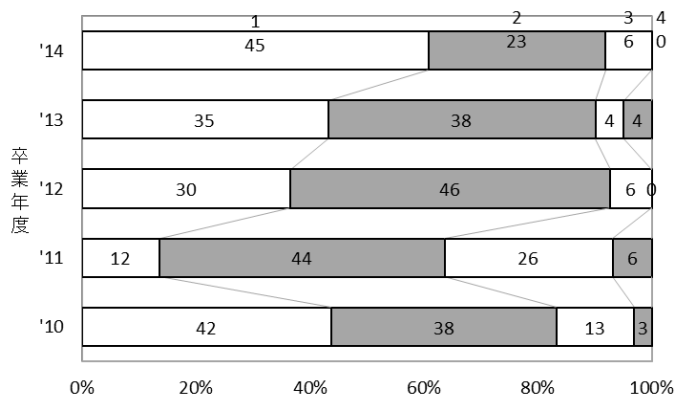
(F2) 理学専攻の評価項目に関して次の 4 段階で回答して下さい。

1. 大いに満足である
2. 満足である
3. 不満足である
4. 大いに不満足である

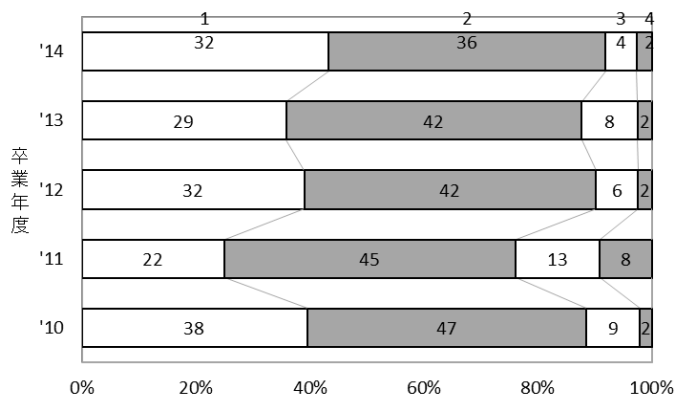
a. 授業科目の開設状況：



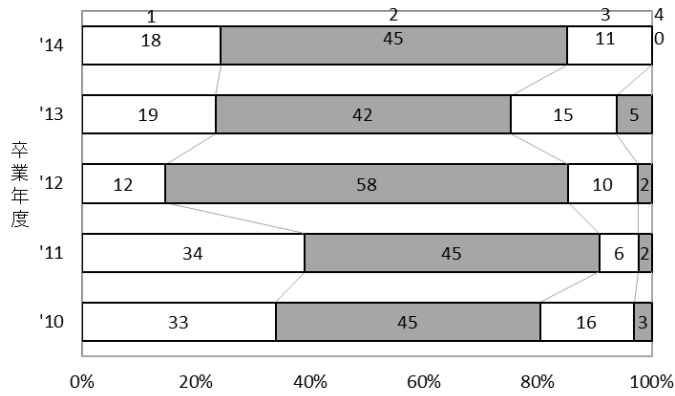
b. 修論等の指導：



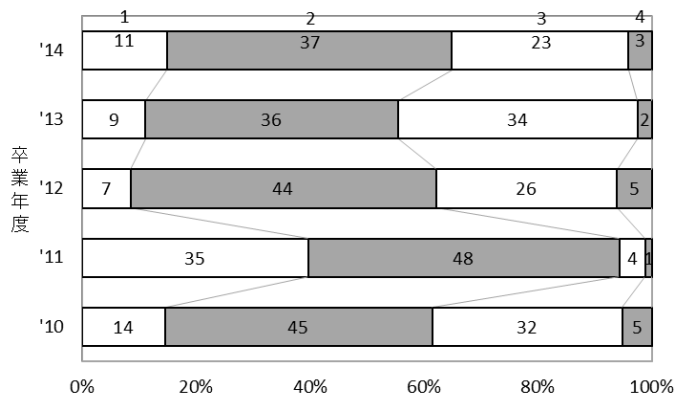
c. 研究室等での人間関係：



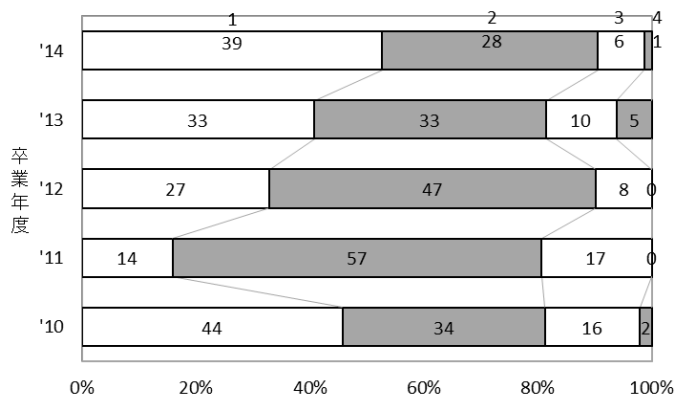
d. 施設や図書等の勉学環境：



e. 国際交流 :



f. 教職員等の熱意・対応態度等 :



意見など : 5 件

- 教員は皆、指導能力的にも人格的にも優れている方ばかりである。物理学コースを選ぶ学生が少なく、研究室の規模が小さいのが残念。
- 留学生が研究室にいない。
- f.に関しては、多くの先生方は 1 であるが、きちんと授業をしてくれない先生も何人かいらっしゃる。最低でも 15 回の講義はやってほしい。
- 積極的に質問に行ってもちゃんとした回答が得られず研究を自由なペースで進められず不満だった。

最終的な指導内容にはとても満足している。質問の度に指導内容がちがったり、あまりこちらの話を聞いてもらえないと感じたこともあった。こちらの頑張りを認めてほしい。

- 国際交流はあまりなかった。

ここ3年間は同様な傾向が伺えたが、4年前は少し異なる結果となっている。したがって、今後も継続的にアンケート活動を続けることで、院生の状況を明らかにしていく必要があるだろう。